

情報通信審議会 情報通信技術分科会 公共無線システム委員会  
技術的条件作業班（第6回）議事要旨

1 日時

平成22年1月14日（木） 10時00分～11時00分

2 場所

総務省10階 1002会議室

3 出席者(敬称略)

(1) 構成員

原田 博司(主任：(独)情報通信研究機構)、加藤 数衛(主任代理：(株)日立国際電気)、  
芦屋 秀幸(国土交通省)、小野 光洋(富士通(株)、代理出席：西土井 健)、狩俣 恭太郎  
(社)電波産業会)、志賀 康男(警察庁)、鈴木 淳((財)移動無線センター)、竹内 嘉  
彦(日本無線(株))、成澤 昭彦(パナソニックシステムネットワークス(株)、代理出席：  
川瀬 克行)、柳内 洋一(日本電気(株))、山崎 高日子(三菱電機(株))

(2) 説明者

大堂 雅之((独)情報通信研究機構)

(3) 事務局

鈴木 信也(基幹通信課長)、林 義也(基幹通信課課長補佐)、  
新田 隆夫(重要無線室長)、根本 朋生(重要無線室課長補佐)

4 議事

(1) 前回議事要旨(案)の確認

公共無線システム委員会技術的条件作業班(第5回)の議事要旨(案)が了承された。

(2) 既存放送業務との検討アドホックグループ検討結果について

既存放送業務との検討アドホックグループの概要について事務局から説明の後、資料  
2028-WG-5-6に基づき、その検討結果についてアドホックグループのグループリーダーを  
努めた(独)情報通信研究機構の大堂主任研究員から説明が行われた。

主な質疑は以下のとおり。

芦屋 構 成 員： 個別の共用検討についての説明(p.20等)において、フィルタの改善実  
力値が40dB以上であると記されているが、フィルタの減衰量の見込み  
例(p.24)では35dB程度であるとされているが、互いの関係はどうな  
っているのか。

大堂主任研究員：35dBというのは、p.24のグラフでは170MHzでの値に相当する。

放送事業用無線局は170MHzより低い周波数を使用しているから、40dB以上となる。

芦屋構成員：p.24のグラフでは、180MHzあたりから通過帯域幅になっているようだが、これよりも低い周波数とする場合、例えば175MHz等を使用する場合にはどうなるのか。

大堂主任研究員：より急峻なフィルタを用いるべきで、そうでないときには共用が難しくなることも想定される。

### (3) その他

事務局より、7回目の作業班については、1月25日(月)の午前に開催予定である旨連絡があった。

#### 【配布資料】

資料 2028-WG-6-1	公共無線システム委員会技術的条件作業班（第5回）議事要旨（案）
資料 2028-WG-6-2	既存放送業務との検討アドホックグループの検討結果のとりまとめ
参考資料 1	既存放送業務との検討アドホックグループ運営方針
参考資料 2	既存放送業務との検討アドホックグループ構成員